



令和 8 年の干支は午(馬)にあたります。なぜ、馬なのに「午」の文字なのでしょう。
「うまどし」ですが、「馬年」ではなくて「午年」と書いてうまどしと読みます。



「午」の字、「うま」と読む以外にも、普段どこかでよく見かけます。
「正午」「午前」「午後」などの時間を表すときに午の字を使います。

なぜ、時間を表すのに「午」の字を使うのでしょうか？

その理由は、江戸時代までの時刻や方角を表す方法に、「干支」が関係あるためです。
現在では 1 日は 24 時間で生活していますが、江戸時代までは
1 日を 12 の刻に分けていました。その刻をあらわすのに二つの方法があったのですが、
その一つが時刻を「干支」で数える方法でした。

有名なものとしては、「草木も眠る丑三つ時(うしみつどき)」
「丑の刻参り(うしのこくまいり)」などお聞きになったことがあるのではないのでしょうか。

この「丑」は午前二時頃をあらわしています。

このように、昔は時間を数えるのに、年賀状に使われる干支と同じ
「子・丑・寅…」などを使っていたのです。



(なお、もう一つの数え方では「明け六つ」「暮れ六つ」などと数えます)

干支で時刻を数える場合の数え方は、午前 0 時前後の 2 時間を「子の刻」とし、
それ以降、2 時間刻みで丑、寅…と順番に続いていきます。
そうして数えていくと、ちょうどお昼の 12 時が「午の刻」になります。
12 時を「正午」と言うのは、このように 12 時がちょうど「午」であることに由来します。
また、お昼の 12 時を境に「午前」「午後」と言うのも、「午の刻」より前か後かということです。

時刻だけでなく、方角も同様に十二支であらわされていました。
方角では、北が「子」、東が「卯」、南が「午」、西が「酉」です。(西と酉は文字も似ています)
北極と南極を結ぶ線を「子午線」と言いますが、この単語も北(子)と南(午)に由来しています。

【お知らせ】冬期閉園時間について
早めの日没の為、12 月と 1 月は
閉園時間午後 4 時とさせていただきます。

